

令和6年度(令和5年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表
2次評価者

教育部博物館（新美南吉記念館）教育部長 森田知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
35-1	新美南吉童話賞	C	応募数は減少したものの、特別審査員より、入賞作品はもとより、各部門の一次審査通過作品についても粒揃いとの高評価を得た。また入選者18名のうち市内から3名の方が入賞した。令和4年度より応募資格を商業的に出版したことのない方に限るとしたことの影響があつてか、自由創作部門一般の部とオマージュ部門の応募数が減少傾向にあるが、賞金目的ではなく、新美南吉の名を冠する賞に価値を見出している方からの応募を頂いていると捉えている。市民からの応募数が伸びていないため、持続的に応募数を増やすことが課題である。	改善推進	令和6年度（第36回）より、郵送・持参に限っていた作品の応募方法にロゴフォームを加える。応募者はパソコンで原稿を書く方が大半であり応募しやすくなり、応募数の増加が期待される。今後もオマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰につなげる。
35-2	企画展開催事業	C	観覧者の目標値は高めに設定している。コロナ禍で減ったものが順調に戻りつつあるが（平成31年は、282人／日）、まだ目標値にもコロナ禍前にも届いていない。観覧者の増減については、展示内容以外の外部要因として、秋の彼岸花の開花状況が影響していると思われ、観光のついでではなく目的となるような展示作成が求められる。	改善推進	生誕110年で南吉に注目した人々の関心を維持し、さらに新しい層を開拓できるような企画を立てる必要がある。そのために、今後も原画展や、作品の内容に関わる展示など、多彩な切り口で企画を立案する。
35-3	新美南吉生誕110年記念事業	B	誕生日当日にアイプラザ半田で行った記念行事はチケットを完売し、来賓関係者含め509人が観覧した。年間を通した記念事業は、新美南吉記念館主催事業の他、庁内他課が実施したもの、民間団体と共催したもの、市民事業募集に応募されたものなど多岐にわたった。PRサポーター募集、名鉄電車吊広告など民間事業者とタイアップしたPRも積極的に行い、生誕110年をきっかけに新美南吉の知名度を向上させ、市民の南吉に対する関心を高めることができた。	終了	生誕110年事業は終了したが、記念館内ビデオシアターでは、令和5年7月の生誕祭で上演した市内小学生による「ごんぎつね」朗読リレーを聴くことができる。これからも幅広い世代に南吉顕彰事業への参加を促し、市民の南吉に対する誇りと愛着を醸成する。
課等長	1次評価（令和5年度の総括評価）				
B	企画展事業において、出版されたばかりの絵本『てんごく』の原画を展示し、絵本作家の親子講演会を開催したことは、時宜をとらえた展示と魅力ある関連行事を実施できた点で大いに評価できる。童話賞事業では、応募総数は減になったものの、入選作品の高い質と半田市民が例年より多く入賞した点で、賞の価値を高めることができた。新美南吉生誕110年事業では、メインの生誕祭公演をはじめ各イベントの観客数が好調だったほか、幅広い団体や市民と連携して実施できたことは、南吉が地元根付いている証といえる。				
部等長	2次評価（令和5年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	新美南吉生誕110年の機会を捉え、多彩な記念事業を展開したことで、市民の南吉に対する理解と親しみを一層深めることができた。生誕110年記念事業で取り組んだ幅広い団体や市民との連携、市内児童の事業参加、市民へのPRの充実を今後も継続推進すること。また企画展や童話賞事業においても、新しい内容と地元との連携を意識すること。				

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	35-1																																		
PDCA	主要事業名	新美南吉童話賞事業	部課名	新美南吉記念館	担当	竹内																																		
					内線	26-4888																																		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と継承 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 3,198 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.05.07.05.01																																							
	事業概要等	事業概要： 創作童話を広く募集する。自由創作部門と新美南吉オマージュ部門の二部門で募集し、一次・二次審査を経て優秀な作品を表彰する。受賞作品は入選作品集「赤いろうそく」として発刊、全国の図書館や関係各所へ配布する他、記念館で直接販売や通信販売も行う。入選作品とともに童話賞をさらに全国発信していく。																																						
		事業目的： 南吉作品の普及と南吉顕彰を進め、ふるさと半田への関心を深めるとともに、児童文学の振興に寄与する。																																						
		事業内容： 南吉生誕110年を記念して新美南吉童話賞の応募数増を期したPR、情報発信及び入選作品集「赤いろうそく」の充実とともに、将来も持続可能な審査体制の確保に取り組む。																																						
		問題点： 創作の楽しさと南吉作品の魅力をさらにPRすること、また持続可能な審査課題等： 体制を確立する必要がある。																																						
	予算額	主要事業とする理由																																						
	3,198 千円	新美南吉記念館の対外的事業として、投入する労力・予算両面において、企画展と童話賞を二本柱としているため。																																						
	財源内訳	得られる成果																																						
	市費 2,635 千円	多くの方が新美南吉と作品及び南吉のふるさと半田への関心を持ち、児童文学の振興へと繋がる。																																						
	国費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新美南吉童話賞応募数</td> <td>実績値 1,800</td> <td>1,841</td> <td>—</td> <td>編</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 2,000</td> <td>2,000</td> <td>2,000</td> <td>編</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 563 千円</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					目標値や目指すべき状態	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	新美南吉童話賞応募数	実績値 1,800	1,841	—	編		目標値 2,000	2,000	2,000	編		実績値					目標値				その他 563 千円	実績値					目標値		
目標値や目指すべき状態	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																				
新美南吉童話賞応募数	実績値 1,800	1,841	—	編																																				
	目標値 2,000	2,000	2,000	編																																				
	実績値																																							
	目標値																																							
その他 563 千円	実績値																																							
	目標値																																							
D 実績 得られた成果と	決算額	得られた成果																																						
	3,170 千円	応募数は昨年度より減少したものの、県内7名（うち半田市3名）が入賞し、中日新聞県内版や知多版でも関連記事が掲載され、当童話賞の知名度向上と南吉顕彰につなげることができた。																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新美南吉童話賞応募数</td> <td>実績値 1,569</td> <td>編</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値 2,000</td> <td>編</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					成果指標	令和5年度	単位	新美南吉童話賞応募数	実績値 1,569	編		目標値 2,000	編																									
	成果指標	令和5年度	単位																																					
	新美南吉童話賞応募数	実績値 1,569	編																																					
		目標値 2,000	編																																					
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 応募数は減少したものの、特別審査員より、入賞作品はもとより、各部門の一次審査通過作品についても粒揃いとの高評価を得た。また入選者18名のうち市内から3名の方が入賞した。令和4年度より応募資格を商業的に出版したことのない方に限るとしたことの影響があつてか、自由創作部門一般の部とオマージュ部門の応募数が減少傾向にあるが、賞金目的ではなく、新美南吉の名を冠する賞に価値を見出している方からの応募を頂いていると捉えている。市民からの応募数が伸びていないため、持続的に応募数を増やすことが課題である。																																						
A 今後の課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	改善推進 令和6年度（第36回）より、郵送・持参に限っていた作品の応募方法にロゴフォームを加える。応募者はパソコンで原稿を書く方が大半であり応募しやすくなり、応募数の増加が期待される。今後もオマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰につなげる。																																						
	観点別評価	必要性		有効性		効率性																																		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地	ない ※対象・手段の変更																																			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地	ない																																			
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない																																						

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	35-2
PDCA	主要事業名	企画展開催事業	部課名	新美南吉記念館	担当	三輪
					内線	26-4888
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策：文化の振興と継承 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 3,071 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.05.07.07.01					
	事業概要等	事業概要： 南吉の魅力発信のために、時宜的な話題を捉え、南吉とその文学をテーマに企画展・特別展を開催する。令和5年度の特別展は、長野ヒデ子による南吉の新作絵本を中心とした原画展を行う。また童話「牛をつないだ樫の木」の掘り下げや、知多半島の自然を撮り続ける相地透氏の写真と南吉を関連付けるなど、多様な切り口で展示を行う。				
		事業目的： 常設展示とは違う視点で南吉とその文学を取り上げた企画展や特別展を開催することで、新たな魅力を感じてもらう。				
		事業内容： 4～7月に牛をつないだ樫の木展、7～10月に特別展「長野ヒデ子原画展」、11～1月に知多半島の自然と南吉写真展、1～3月にペーパーアート展を開催する。				
		問題点・課題等： 特別展はプロポーザル形式でアイデアとデザイン性に優れた企画案を得ているが、落選業者にはリスクが高く、参加社の確保に苦労している。				
	予算額	主要事業とする理由				
	3,071 千円	新美南吉記念館の対外的事業として、投入する労力・予算両面において、企画展と童話賞を2本柱としている。				
	財源内訳	得られる成果				
	市費 3,019 千円	毎年の企画展・特別展を魅力あるものにすることで、リピーター増加へと繋げる。				
	国費 0 千円	目標値や目指すべき状態				
県費 0 千円	特別展1日あたりの観覧者数	実績値	121	217	—	人
その他 52 千円		目標値	300	300	300	人
		実績値				
		目標値				
		実績値				
D 実績値と成果と	決算額	得られた成果				
	2,980 千円	南吉の生誕110年を記念し、新作絵本が発刊された2か月後に原画展を開催することで、より話題性のある特別展となった。目標値には届かなかったものの、特別展1日あたりの観覧者数も昨年より33人増となっている。				
		成果指標				
		特別展1日あたりの観覧者数	実績値	250	300	人
			目標値	300	300	人
C 課題の整理	事業の評価・課題	観覧者の目標値は高めに設定している。コロナ禍で減ったものが順調に戻りつつあるが（平成31年は、282人／日）、まだ目標値にもコロナ禍前にも届いていない。観覧者の増減については、展示内容以外の外部要因として、秋の彼岸花の開花状況が影響していると思われる、観光のついでではなく目的となるような展示作成が求められる。				
		改善推進				
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性	生誕110年で南吉に注目した人々の関心を維持し、さらに新しい層を開拓できるような企画を立てる必要がある。そのために、今後も原画展や、作品の内容に関わる展示など、多彩な切り口で企画を立案する。				
	観点別評価	必要性	有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 中程度	⑦コスト削減 減余地	ない	
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない				

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	35-3																																				
PDCA	主要事業名	新美南吉生誕110年記念行事事業	部課名	新美南吉記念館	担当	竹内																																					
					内線	26-4888																																					
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策：文化の振興と継承 全体事業期間： 令和 4 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 4,249 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.05.07.10.50						目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用																																				
	事業概要等	事業概要： 令和5年の新美南吉生誕110年を記念して、各種事業を展開する。 ・生誕祭式典、「ごんぎつね」朗読リレー、童話賞審査員作家による対談、 長野ヒデ子絵本原画展、南吉童話ワークショップ、みんなの南吉展、再来館 促進事業、PR用ノベルティ、街頭サインなど																																									
		事業目的： 記念事業を通じて、市民の南吉に対する親しみを深め、全国に向けて南吉の ふるさと半田をアピールする。																																									
		事業内容： 小学生24人が4か月間の練習を経て、生誕祭において「ごんぎつね」をリ レーに朗読する。音源は記念館ビデオシアターの番組に使用する（朗読リ レー）。																																									
		問題点： 集団による朗読リレーなど、コロナ感染状況に影響を受ける事業がある。 課題等：																																									
	予算額	主要事業とする理由																																									
	3,805 千円	節目となる生誕110年を記念する事業で、通常期では実施しない特別企画・事業を寄附 金や積立金を活用して大々的に展開する。																																									
	財源内訳	得られる成果																																									
	市費 0 千円	多様な事業を展開することにより、幅広い層への訴求が可能となり、今後の南吉顕彰へ の市民参加に繋がる。																																									
	国費 0 千円	目標値や目指すべき状態																																									
	県費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朗読リレー発表会の観客数（観客数÷定員）</td> <td>実績値</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>—</td> <td>80</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>童話賞講演会の聴講者数（聴講者数÷定員）</td> <td>実績値</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>—</td> <td>80</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3,805 千円</td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	朗読リレー発表会の観客数（観客数÷定員）	実績値	—	—	%		目標値	—	80	%	童話賞講演会の聴講者数（聴講者数÷定員）	実績値	—	—	%		目標値	—	80	%	その他	実績値				3,805 千円	目標値				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																						
	朗読リレー発表会の観客数（観客数÷定員）	実績値	—	—	%																																						
		目標値	—	80	%																																						
	童話賞講演会の聴講者数（聴講者数÷定員）	実績値	—	—	%																																						
	目標値	—	80	%																																							
その他	実績値																																										
3,805 千円	目標値																																										
D 得られた成果と実績値	決算額	得られた成果																																									
	3,133 千円	南吉の詩の一節「さあ、この泉を汲んでくれ」をキャッチコピーに、講演会、朗読会、 生誕祭式典など多彩な事業を実施した。各イベント動員人数やアンケート結果からも、 幅広い世代に改めて新美南吉とその作品に対し、新たな価値や魅力に気づいてもらえた といえる。																																									
	成果指標																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朗読リレー発表会の観客数（観客数÷定員）</td> <td>実績値</td> <td>100 %</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>80 %</td> </tr> <tr> <td>童話賞講演会の聴講者数（聴講者数÷定員）</td> <td>実績値</td> <td>122 %</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td>80 %</td> </tr> </tbody> </table>							令和5年度	単位	朗読リレー発表会の観客数（観客数÷定員）	実績値	100 %		目標値	80 %	童話賞講演会の聴講者数（聴講者数÷定員）	実績値	122 %		目標値	80 %																						
		令和5年度	単位																																								
	朗読リレー発表会の観客数（観客数÷定員）	実績値	100 %																																								
		目標値	80 %																																								
	童話賞講演会の聴講者数（聴講者数÷定員）	実績値	122 %																																								
		目標値	80 %																																								
	C 課題の整理	事業の評価・課題	B 誕生日当日にアイブラザ半田で行った記念行事はチケットを完売し、来賓関係者を含め 509人が観覧した。年間を通じた記念事業は、新美南吉記念館主催事業の他、庁内他課 が実施したもの、民間団体と共催したもの、市民事業募集に応募されたものなど多岐に わたった。PRサポーター募集、名鉄電車吊広告など民間事業者とタイアップしたPRも積 極的に行い、生誕110年をきっかけに新美南吉の知名度を向上させ、市民の南吉に対す る関心を高めることができた。																																								
今後の事業の方向性		終了 生誕110年事業は終了したが、記念館内ビデオシアターでは、令和5年7月の生誕祭で 上演した市内小学生による「ごんぎつね」朗読リレーを聴くことができる。これからも 幅広い世代に南吉顕彰事業への参加を促し、市民の南吉に対する誇りと愛着を醸成す る。																																									
A 課題の解決に向けた	観点別評価	必要性		有効性		効率性																																					
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	※手段の変更																																			
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある																																						
		③休廃止の影響	小さい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない																																				